

令和4年度

吉野川市立川島中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

社会の担い手となるための基盤となる力を育成する。
 バランスのとれた確かな学力の育成。
 ①確かな学力の育成と個別最適な学びの実現。②生徒一人ひとりの教育的ニーズの把握と指導の充実。③「主体的・対話的で深い学び」の実現、探究的学習や体験活動を通じて他者との「共同的な学び」を充実。

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
明石浩二	結城栄子(校長) 中川浩幸(教頭) 入交理子(人権教育主事) 三橋由美(1年主任) 岡崎勝(2年主任) 山野井貴子(3年主任) 高橋周(生徒指導主事) 二條真理子(特別支援コーディネーター)

校長

結城栄子

【各校の取組状況の把握について】

管理職の授業参観および、教職員の相互授業参観、報告等において取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身についたり、与えられた課題にも真面目に取り組めたりできる生徒が多い。 ○小テストに意欲的に取り組む生徒が多い。 ○真面目に授業に参加する。 ●身につけた知識を関連づけたり活用したりすることに課題がある。 ●知識・技能を得るよりも、課題をこなすことを優先している。	・学習の過程を通して習得した知識を既習の知識と関連づけて他の学習の場面で活用することができる。 ・身につけた技能を他の学習や生活の場面において活用することができる。 ・家庭で自主的に継続的に学習に取り組むことができる。 ・基礎的な知識が定着している。	・他学年・他教科の教員が相互に授業参観を行う。 ・学んだ知識を活用する場面を設定し生徒が興味をもって学習に取り組めるよう工夫した授業を行う。 ・自主勉強ノートの効果的な使い方を指導する。 ・教科書の内容や問題文の意図、グラフ等が示す意味などの読み取りではアンダーラインを引き正確に読み取らせる。	・基礎的、基本的な知識・技能の不十分な生徒が多いので、繰り返し学習や家庭学習を徹底する。	・学校評価アンケートで「学校では集中してまじめに勉強できている」肯定群95%「毎日かかさず家でも勉強してる」肯定群69%だった。 ・各教科の課題達成率は90%、自主勉強ノートの提出はほぼ100%提出できまじめに取り組めた。知識の習得や学習意欲に課題があり学年にばらつきがある。 ・ICTやタブレットPCを活用した授業を行い、生徒の興味・関心を高めることができた。	・基礎基本の知識が定着するように効果的な手立てを考える。 ・学んだことを活用する場面を設定した授業を計画的に行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒が多い。 ○基本的な発言の仕方や、積極的に発言しようとする態度が身についている。 ●複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。 ●「より伝わる表現」を工夫する必要がある。	・各授業における課題等に対して話し合い活動等を通して解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において適切な言語活動により表現することができる。 ・自分の考えを自分の言葉で具体的にわかりやすく伝えることができる。	・ペア学習・グループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・「ことばの手帳」等、語彙を豊かにする取り組みを継続的に行う。 ・別の言葉に言いかえる、関連づける、そう考えた根拠と理由を引き出す発問を行う。	・知識・技能を活用する学習や課題解決的な学習を、言語活動を取り入れながら行う。	・具体的な表現、根拠や理由の説明等に課題が残る生徒も一部いる。 ・ペア学習や少人数での話し合いなどは積極的に進めることができた。 ・学校評価アンケート「できるだけ本や新聞を読むようにしている」肯定群33%であり、紙媒体からの情報離れが深刻である。	・お互いの意見を的確に伝えることができるように、発表などの場面を多く設定する。個人のめあてを明確にし、達成レベルを上げていく。 ・質問し合い、考えを深めていくような話し合い活動を行っていく。 ・継続してブックリスト作成など、図書委員会の活動を活性化していく。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業に対して集中して一生懸命取り組むことができ、家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ○授業前の準備や課題の提出ができています。 ●分からないことを質問するなど学力向上に対する積極性が乏しい。 ●自分の考えを客観的に捉えたり不得意な学習内容に対して自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自らの課題を解決できるよう計画を立て実践することができる。 ・苦手なことにも積極的に挑戦し続けることができる	・生徒同士が質問し合う機会を設け、教え合いができる場をつくる。 ・何を、なぜ、どのように学ぶかが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・スモールステップで達成できていることは褒める。 ・振り返りの視点を生徒に示し記述させる。 ・自分の思いや考えを「書く」場面を増やす。	・タブレットPC活用を増やし学習意欲を高める。 ・学んだことを振り返り、それを共有する場面を設定するなど、自分の考えを広げたり深めたりする学習活動を行う。	・学校評価アンケートで、「学校が楽しい」が肯定群90%だったことや、「コンピューターやタブレットPCを使うのは勉強の役に立つ」で肯定群88%だったことから、タブレットPCを使用する機会が増え、学習意欲が高まったといえる。 ・教え合いの雰囲気のできた学年もある。	・課題解決のために、自分で計画を立てて実行できるようになるための手立てを考える。 ・テストを振り返る時間をつくり、自分の課題を知り、それを克服するための対策を考えさせる。

令和4年度 学力向上ロードマップ

